

良知館通信⑦

中江藤樹墓所

山本 義雄

先生は、慶安元年（一六四八）八月二十五日朝六時四十一歳の若さで亡くなり、遺体は門弟たちによって屋敷の北側に手厚く埋葬された。しかし、明暦年中（明暦元年（一六五五）～三年（一六五七））に屋敷内に葬ることを禁止するというおふれがあり、先生の遺体を掘り出して、玉林寺のこの地へ移された。中江家は玉林寺の檀家であつたため、儒式を以つて葬つたのである。

玉林寺の門前の一面に南口を設けた東西八・五m、南北八・五mの竈垣の中には、向かつて左側に（北の方角が大事な人）藤樹先生墓の石碑が南向き、またその右側には先生の母市



（八十八歳卒）の石碑、その手前の拜座の隣に三男弥三郎の常省先生墓

（六十二歳卒）の石碑が西向きにある。この三氏の土饅頭のかたちをした墳墓の周りに見られる竈垣は、享保六年（一七二二）に京都同志をはじめ二百十七名の全国の同志の熱意によつて作られた。先生が亡くなつて、七十三年も過ぎてからの出来事である。

全集五巻によると、享保五年小川村に住む大森周助が上京した折に御墓所の竈垣が破損している由を京都同志の河合徳右衛門に話した。これを聞いた京都同志は深く心配し周囲を石でしてはどうかということになり、大森はこのことを高島同志の安原善蔵らと相談すると「重畳の御事」と言つた。高島同志は、南小松の石屋八郎兵を呼び石垣の相談をして、その委細を記した書状を河合のもとへ持参した。河合ら京都同志が総代となり、国々の諸生に建設費を募り、享保六年八月にできあ

がった。なお、二百十七名の地域別内訳は京都三十一、江戸四十八、姫路十四、伊勢・津十五、会津七十八、高田村中十四、阿波十二、桑名五名である。墓所は、生誕四百年の記念行事に際して、高島市文化財課の支援と助言によつて、藤樹書院の国史跡の追加として平成十九年七月二十六日に指定された。

賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます

○ウエストレイクホテル可以登楼

○株式会社 大山建設

○川島酒造 株式会社

○株式会社 桑原組

○有限会社 宏和商事

○税理士法人・小畑会計事務所

○有限会社 白浜荘

○社会福祉法人 新旭みのり会

○ソエタ 株式会社

○株式会社 TADコーポレーション

○鉄屋商事 株式会社

○株式会社 戸井薬局

○とも栄 藤樹街道本店

○中村印刷 株式会社

○株式会社 中村測量設計

○ニッケイ工業 株式会社

○八田建設 株式会社

○有限会社 馬場塗装

○三田村印刷 株式会社

○有限会社 綿庄食品店

（五十音順）

あとがき

昔の常識は今の非常識、

今の常識は将来非常識に?

事務次官のセクハラ疑惑が世間を騒がせています。また、女優へのセクハラから端を発した「Me Too」(告発)運動が広がっています。さらに児童生徒への体罰、優生保護法にもとづく不妊手術、酒気帯び運転、電車内での喫煙……こうした行為は、今では決して許されません。しかし、一昔前には、黙認、あるいは見過ごされてきたことです。

それでも、もつと昔は、男女別学で女性には参政権がない、結婚や就職に際しての身元調査、未成年者の飲酒規制がない……など、今では考えられないことが当たり前に行われていました。所謂「常識(的)」の変化・進展なのでしょう。

それでは、三十年先、今の「常識(的)」はどのように変わっているのでしょうか。子どもの貧困、老人の孤独死、ホームレスの人達の存在、農山村部の荒廃、「どの学校でも起こりうる」と言われるいじめ、多くの自殺者の存在、格差があたりまえの社会……今のこれらの現象は?

三十年後には「そんなおかしな現象が、三十年前には当たり前だったとは信じられません。」とのつぶやきがあるのでしょうか。(H・M)